

姉妹締結特集

祝 辞

本日、基隆東ロータリークラブにおかれましては栄えある国際ロータリー加盟認証状伝達式を迎えられ誠にめでたく心からお喜び申し上げます。

本年1月6日に仮クラブをご結成、以来着実に基盤を固められ名実ともに立派に成長されて、本日の認証状伝達式を挙行されることはまことに喜ばしくご同慶にたえません。更にこの佳き日に貴クラブと神戸垂水ロータリークラブの姉妹締結がなされることは本当に嬉しく、私共一同感激している次第です。聞くとところ両クラブはいともよく似ており、共に世界屈指の港湾都市に新鋭の会員30有余名が友情の絆を結んでいます。

今日から両クラブは誠実と友誼を基本に、虚禮や浪費は省いてロータリー精神に徹した真の交際を末永く結んで行き度いと切に望んでいます。

最後に皆様と共に貴クラブに幸あれと祈り。この上のご発展を期待してお祝のことはといたします。

神戸垂水ロータリークラブ会長 中沢啓二

御 挨拶

基隆東クラブ会長 白 萬 再

本日私達基隆東ロータリークラブ会員一同は非常な興奮と感激の気持ちで、今日の認証状伝達式と神戸垂水ロータリークラブとの姉妹クラブ結成式典を同時に挙行出来ました事は私達最も喜びとする処で有ります。

「雙喜臨門」正に此が私達の喜びを言い得たと想います。

此の佳き日に当り日本より中沢会長を始め、多数の会員の皆様方が此の式典に御参加下され誠に有難う御座いました。会員一同に替り私より御禮申し上げます。

此の度、スポンサークラブ王宗生会長と潘春季前会長の御好意と御取計いで、神戸市に於て活潑なる奉仕活動が続けて居られる神戸垂水ロータリークラブと、本日茲に姉妹クラブを締結出来ました事は私達非常に喜ばしく光榮に存じて居ります。此の5月19日の佳き日は両クラブの歴史に末永く共に記念として残るでしょう。

今後両クラブは姉妹クラブ結盟を出発点として、ロータリー精神の昂揚、国際友誼の増進等、会員一同力を合せ、ロータリーの崇高なる理想に向い、国際間の諒解を深め、平和愛好を促進し国民外交の効果を挙げ度いと存じます。

終りに神戸垂水ロータリークラブの益々の御発展と会員御一同の愈々御健勝を心よりお祈り致します。甚々簡単では御座いますが基隆東ロータリークラブを代表して、御挨拶と致します。



程 序 表

登 録 (4:30)	司儀 游傳旺秘書
開会宣言 (5:00)	白 萬 再 社 長
唱 国 歌	
主席致詞	白 萬 再 社 長
唱扶輪歌 歡迎社友歌	
介紹來賓	劉銘珍聯誼主委
市長致詞	陳 正 雄 市 長
經過報告	劉慶旺特別代表
唱歡迎區總監歌	
區總監致詞	巫 永 昌 區 總 監
授 証	巫 永 昌 區 總 監
姉妹社結盟協約	白 萬 再 社 長
結盟社社長致詞	中 沢 啓 二 會 長
交換禮品	
輔導社社長致詞	王 宗 生 社 長
輔導社贈送禮品	王 宗 生 社 長
來賓致詞	
宣讀賀電	
贈送禮品	
S A A	劉 清 木 糾 察
致謝詞	賴 國 獻 副 社 長
禮 成	
交 誼 (7:00)	
聚餐・娛興 (7:15)	

晚 安

神戸垂水ロータリークラブ・基隆東ロータリークラブ 姉妹クラブ協約

国際ロータリー中華民国総社台湾省基隆市第3分社（第345地区基隆東ロータリークラブ）と国際ロータリー第368地区日本国神戸垂水ロータリークラブとは、茲に姉妹クラブ協約を結び夫々次の条項を承諾する。

第一条 協約の目的

本協約は、両クラブの会員間の友情と理解を深め、相互に姉妹クラブの属する国家についての知識と理解を更に深め、依ってロータリー精神を高揚し両国及び世界平和と文化の向上に寄与することを目的とする。

第二条 協約の継続期間

本協約は、1977年5月19日より1980年5月18日に至る3ヵ年期間継続するものとし、両クラブ相互の同意により、更に協約の継続期間を次の3ヵ年の期間を以て更新し延長することが出来る。

第三条 事業

- 第一項 両クラブは週報・会報・雑誌・会員名簿等の刊行物・クラブ活動状況を伝えるフィルム・スライド・録音テープ及び郷土産物等を互に交換する。
- 第二項 各クラブは、姉妹の活動状況並に消息（音信）を会員に周知させると共に、その会報に記載し報告する。
- 第三項 その姉妹クラブの所在する地区を訪問する各クラブの会員はその姉妹クラブの例会に必ず出席し、その所属クラブの最近の活動状況を報告する義務がある。
- 第四項 その姉妹クラブの所属する地区を訪問する各クラブの会員は、本人または家族同伴或は同行者がある場合でも、その姉妹クラブの会員に依って能う限りの便宜が提供せられる。
- 第五項 両クラブメンバーで同一職業である場合、相互に職業技術上で連繫と協力をする。
- 第六項 その他の事項については相方協議の上に行うものとする。

第四条 排他的でない協約

本協約は夫々のクラブが他のクラブと姉妹のクラブの協約を結ぶことを妨げるものではない。但し、この場合は事前に連絡する事。

第五条 姉妹クラブ結成記念週間

本協約は、1977年5月19日を結縁の日として公式に発効せられる。よって、両クラブは夫々本協約が公式に発効した月のその週間を毎年、姉妹クラブ結成記念週間として意義あらしめる。

第六条 国際ロータリーと関係官庁への報告

茲に、両クラブに依って本協約は受諾された。よって直ちに、両クラブは夫々の地区ガバナーを通じて国際ロータリーに本協約の締結されたことを公式に報告する。其の他必要であれば関係官庁に報告承認を受ける。

第七条 本細則は二部作成し相方各一部を保存するものとする。

国際ロータリー第368区

国際ロータリー第345区

日本神戸垂水ロータリークラブ

基隆東ロータリークラブ

会 長 中 沢 啓 二
幹 事 楯川帝次郎
国際奉仕
委 員 長 増 田 光 夫
立 会 人 合 田 督

会 長 白 萬 再
幹 事 游 傳 旺
国際奉仕
委 員 長 魏 泰 弘
立 会 人 王 宗 生

1977年5月19日

私はロータリーに入会して以来10年経ちますが、今回基隆を訪問し、式典に参列してこれ程ロータリアンとして嬉しく楽しんだ経験がない。このご交際の様子を参列された諸會員に、それぞれ感想と報告をお願いしました。



バンコックから一足先に台北に来ていた私は、メイングループが到着するのを迎えに松山空港に行く。バンコックから台北へ来てホッとしたのは矢張り言葉が通じると言うことであり、漢字の国同志の間柄、そして日本語が通じ、治安の良さである。

★台湾には現在50余りのロータリークラブがあると云うことであるが、これらのクラブ全部が日本の各クラブと姉妹結をしており、現に淡路のあるクラブから姉妹の申込みがあったが、お断りせざるを得なかったとロータリーだよりによっておりましたが、基隆東クラブと姉妹クラブを結べたことは偶然ではなく、これは従来の基隆南クラブのお付き合いから生まれたものと云えます。

★台湾での出来事 ロータリーの姉妹関係を結んだと云うことは、家族ぐるみのお付合いを意味するのですね。基隆南の張福来さん宅でご招待を受け、近くのロータリアンが集って今まで見たこともない程見事な料理が卓一杯に盛られ、紹興酒を汲みかわしながら、食事の一刻を楽しんだ。この台湾の人々の食べる楽しさ、友人、家族の人々の団らんを楽しむ生活態度を私達は見習わなくてはならない。

★或る南クラブの社員が仰しゃっていましたが、私がタイから飛来したことを話しますと、タイと台湾は現在国交がないので行くことが出来ないのが残念であると。

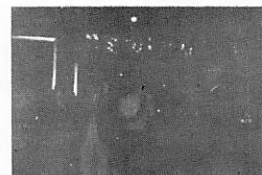
私達日本人があたり前の様に考えていることが、国が変れば不可能なことになる、従って国際理解親善が必要なのであると実感致しました。

(山中記)

松山空港第一歩

我々5名の乗ったJAAのEG 231号機は、予定通り宵闇のせまる台北松山空港に着陸したのは、台湾時間の18:20であった。通関も記念品の大きなスピーカーを持った増田会員を除いては、殆んどフリーパスに近い寛容なものであった。

待合室に入るとバンコックから先まわりしていた山中会員が『平岡さん』と大声で迎えてくれた。それからは基隆東、南のメンバーが大勢わっつと出迎えに来られ、早々に我々の前に造花のレイをかけてくれ、記念写真を撮る。バックには手まわしよく歓迎垂水R.C.の金紙細工のかざり幕が造られている心くばりの良さ。



合田、楯川会員は久方ぶりの再会を張基隆南会員とかたい握手。全員早速名刺の交換をしたが、うっかり用意を忘れた私はすぐ名刺がなくなりお詫びばかり。帰って調べてみたら15枚ももらっていた。あとで気がついた事だが、松山空港と基隆は距離27キロ、タクシーで約1時間かかる位離れている。2年半前にチャーターナイトを行った我々にとって、基隆東クラブのチャーターナイトの前夜、あれ丈の人が出迎えに来てくれるという事がどんなに大きな負担であるかを考えると、更にうれしく有難く感じた。

ほんとうに礼儀正しい国である。

(平岡記)

5月19日、今日は午後5時から式典が始まる。5時までは市内観光を予定していたが、基隆南R.C.の張福来さん宅で我々のための昼食会を催して下さったので、それぞれ(中沢、平岡、合田、山中、楯川)正装して11時30分宿舍台北の美琪大飯店ホテルロビーに集合。昨夜は訪台期待の第一夜を明かした皆さん、旅の疲れもとれスッキリした面持。

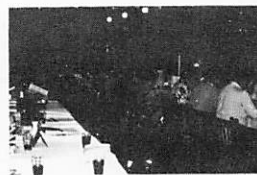
11時30分タクシー2台に分乗して基隆に向う。増田さんは急に仕事が出来たとかで会場で落ち合う事を約し台北に残留。台北から車で約50分基隆市に到着。張さん宅を訪問。鉄筋コンクリート4階建の事務所兼住居の立派な建物、早速豪華な居間に案内される。そこには張さんの100%皆出席の記念盾、種々の感謝状、他クラブのパナーが処せましと飾られている。雑談数十分、三三五五と近所のロータリアンが集まった。やがて食堂に通される。美しい奥様方に迎えられ食卓につく。食卓には魚肉類が盛り沢山並ぶ。奥様方自らのお手料理。張さんは船具商の傍ら漁業を兼業しておられ今日の魚(車エビ、鯛、アワビ、いか)はとった



ばかりのフレッシュなもの。それを料理自慢の奥様が味付けされたもので大変美味。チョット台湾のレストランでは味わえない珍味、食通の山中さんもウマイウマイの連発、本当に好吃！（おいしい）全員称賛。

ここで食事につきものの紹興酒が出される。式典を前に飲む事は遠慮していたが、却ってリラックスして良いと云われ（云々嫌いでもなし）、それではと1杯が2杯、3杯と乾杯を重ねること4時まで。式典開始の時間も迫り些か酩酊気味に会場に向う。会場入口で盛大な拍手に迎えられ所定の席についた。（楯川記）

5月19日、いよいよ姉妹関係締結調印と基隆東区扶輪社のチャーターナイトの日である。午後5時前に会場の海員服務処に入る。ここは市内の中心地国鉄基隆駅のすぐ隣にある。又基隆クラブ、南クラブ、東クラブの例会場でもある。多数の来客が続々と入場する会場入口には、チャーターナイトと締結式の立派な立看板、式場にも同様の垂れ幕がかかり、「神戸垂水」という文字が一入懐しきを感じさせる。



午後5時、游幹事の司会で式典の始まり、中華民国の国歌斉唱に続いて「君が代」を唱和。

今回の参加者は陳基隆市長等来賓をはじめ約300名。東クラブ、南クラブの御婦人方が約50名花を添える。式典は東クラブ白会長の挨拶から順次進展、厳肅な中にも和やかな雰囲気流れ、スピーチに対しても時折笑声が起る。司会は日本語でも行い、又白会長以下2、3の方々は日本語で繰り返される。暖かい心遣いが身に浸みる。台湾最大のテレビ会社の撮影、カメラマンの放列。東クラブの認承状伝達が終り、式典が最高調に達した時、姉妹締結の調印に入る。当クラブより中沢会長、楯川幹事、合田立会人、増田国際奉仕委員長が調印。調印後当クラブ中沢会長の堂々たるスピーチに続き、坂井兵庫県知事、平島368地区ガバナーのメッセージの代読、各々平岡次期幹事、山中副幹事が行う。続いて感謝状、記念品等の交換があり、午後6時50分式典無事終了。一同会場より一時退場、ホールで記念撮影をしている間に手際よく会場は中国式の懇親会場に変貌。

午後7時よりチャーターナイト懇親会に入る。餐もたけなわ、乾盃に次ぐ乾盃でメートルも急上昇。バンドが入り唱歌の時間となる。中国の歌を聞き日本の歌を歌う。

中でも御婦人方によるコーラス「星影のワルツ」が印象深く、平岡、山中会員もじっとしておられずコーラスに参加。2時間という長い時間がアッと云う間に過ぎ、一同心から楽しんでる中に午後9時お開き。これにて本日の公式スケジュールは無事終了、その内、二次会へのお誘い。まずは地元基隆の小上海酒家へ。続いて台北のクラブフラミンゴ（紅鶴鶴）。南、東クラブのメンバーが多数同道、クラブでは特別ショーもあり、ムードも最高……。

各々の想いを胸に秘めホテルへ帰ったのは明午前1時でした。公私共多忙な一日でありました。（増田記）

4月20日、大任を果たした翌日、今日は18時より北投で基隆東クラブ主催による歓迎会が行われる。

午前中はフリータイム、中沢、平岡、増田、山中組は故宮博物館へ、平岡さんの年来の希望を果たすために出掛ける。

楯川、合田組は張福来さん御夫妻の案内で礁溪へ観光に行く。礁溪は台湾の北東の海岸にあり、車窓より眺めた海の美しい溪谷に在ります。



張さんと一列車行き違ったが為に、台北駅からあわてふためき急行列車に飛び乗り、座席の確保にウロウロしたり、ボーイが入れてくれる熱いお茶を珍らしがったり、隣りの老紳士が語る「ナツカシイ日本時代」をお聞きしたり、張さんに再会する迄に西洋式の礁溪大飯店で素飯を高くボラれたり、結構面白かったが、張さんのお知り合いの旅館は礁溪名物の小海老の塩あげ等、さすがに美味で、給仕してくれる美少女が純朴なのは、遠くへ来た旅情を味うのに十分でした。

北投、これはもう大歓楽境で山間の細いまがりくねった道を登って行くと、次から次へと大ホテル群が現れる。丁度有馬温泉を考えて戴いたら………と思います。それも江崎須磨元会長のお話によると、戦前からこの賑いで、島田の芸者が往き来し、大阪の料亭街と少しも変らなかったそうです。（日本人は北投をペイトー、乾盃をカンバイと云います。が基隆の方は、ホクト、カンバイと発音します。）

会場の華南大飯店は、北投第一のホテルで東クラブ社員の叔父さんが董事長（社長）をやっておられます。

17：30ホテルに入るとすぐ温泉に案内されたのは有難かった。温泉につかり、上海式の男のマッサージ師に力一杯もみほぐされ、勇躍寛会場にくり込みました。

20坪ほどの広さに5卓、先ず大皿に盛り上げられた刺身、雷魚の洗い、鯛の塩焼きと海鮮料理で始まりました。

白東クラブ社長、王南クラブ社長、中沢会長……挨拶乾盃が続く。

テーブルでは紹興酒を盃に注ぎ、出席者一人一人と乾盃をする。これで大抵の者はフラフラになる。他のテーブルからご挨拶に来る。灯台子は始めから『コーラ』大声をはり上げたから、コーラで乾盃をする。それでもコーラの大瓶2本は平らげる。

歌が始まる。踊りが始まる……。

楽団に合せて唱う歌は、日本のナツメロが多い。これは私達に対するもてなしなのか、又本当に流行しているのか？

3. 4人が肩組んでマイクに向うと、たちまち大合唱となり、マイクの前に10人ぐらい集まる。

基隆の市歌の大合唱に続いて、神戸音頭で踊りまわりました。我々だけでなく基隆東クラブのメンバーも加って、まるでインスタント盆踊り。

プロカメラマンが、この情景をパチパチ写す。平岡会員のポラロイドカメラが大人気、あっちでも、こっちでも写してくれと引っ張り合い。

郭社員（市議員）のストリップ実演は、大爆笑。

肩をたたき合って、盃をあけるものあり、接待のウエイトレスとダンスに興ずるものあり、唱う者、語る者……。

酒池肉林の歓は尽きることなく続きました。

そして私達は基隆東クラブの方々のご歓迎に酔い痴れました。

（合田記）

5月21日の朝は急がしかった。昨夜北投温泉での歓迎会の後、全員バスで台北のホテルへ帰ってから、又会長を囲んでの懇談で朝方の4時すぎまで過ごしたので思わず朝寝をし大急ぎで荷物をまとめて飛び出す。朝食もそこそこに空港へかけつけたのが10時すぎ。

やはり到着の時を上まわる見送りの多数のメンバーが来てくれていた。3日間のおつき合いで名前と顔が付きなり、更に「ホワイト」とか「バッテリー」とかロータリーネームで呼びかけ、肩を抱き合う仲になれたのは本当に嬉しかった。更に数々のおみやげを戴き、記念写真を取り合い歓談はつきない。

基隆東R.C.のチャーターナイトに参加したのは6名であったが、山中会員は先に帰国、増田会員は所用の為高雄方面へと出発、残り4名の旅で別れと共に少々ものがない気分もした。

（平岡記）

シスターロータリー締結まで 張福来さんのこと、潘春季先生のこと

1975年1月私は淡水で建造した5フィートケッチに据付けるコンパスを購入のため、船具屋さんに飛び込んだ。あーだこーだと云っているうちに、机のガラスに敷かれてあるロータリーのマークを目にした。「ロータリアンですか？」
「そうです。今から丁度例会があります。行きましょう。」と連れて行かれたのが、基隆南クラブとの接触の始まりです。そしてこの船具屋のご主人が張福来さんで、当時SAAを連続3年やっておられました。
このメークアップの時私は盲蛇におじずで、垂水クラブの現況を述べると同時にお金のかからない姉妹づきあいが出来れば素晴らしいと申し上げました。

今から考えると日本からドッと姉妹締結の申し込みが殺到し、潘春季社長がお断りするのに苦労しておられた状況でした。この時隣りに坐って色々とお親切にして下さったのが、特別代表の劉慶旺先生でした。だが潘春季先生は私あてに、『留守をして申し訳ない。垂水は旧恩人の縁故の方が住む大切な土地であり、私は関西学院を出ているので大変なつかしい。是非お付き合い願いたいものだ。だが、一国一R.C.と云う原則があり、目下蕨R.C.と姉妹関係を結んでいるので早速にシスター関係に入るのは難しいが、じっくり友好関係を結んで行きましょう』と温情あるお手紙を下された。艇の進水まで私は何度か基隆へ訪れたが、いつも時間がなくバナーをお届けするに止った。垂水クラブのチャーターナイトには立派なバナー『人間に威信を！』を贈って下さった。

潘先生の発案で季文誼社長時代である。潘先生に初めてお目にかかったのは、76年5月先生が張さん、季社長や陳正先生、王宗生現社長等17名が、香港中釜山ロータリークラブを経て蕨ロータリークラブを訪問の途上伊丹へ下船された時でした。楯川幹事、岡田、吉田、吉川会員それに合田が新阪急ホテルで簡単な会食をした。楯川さんが張さん、潘先生

先生に逢ったのもこの時のことであります。又岡田会員が観光バスをお世話したのを大変喜んでおられました。

この年の国際理解週間に三国志より題をとった屏風を送って下さったこの時の委員長が、白萬再先生で東クラブの社長である。

答礼は、本年1月22日基隆南クラブに楯川幹事と、合田が贈答のガラス盾に『四つのテスト』を彫ったものを持参する。
「この贈り物は立派である。このまゝ事務所に飾っておくのは勿体ない。公衆の目にふれる処に飾りたい」とおほめ戴く。

実に基隆東クラブが南クラブのスポンサーにより、11月6日に誕生したことを知ったのがこの日でありました。そして基隆東クラブと姉妹締結をなさっては如何ですか、喜んで仲人の労を摂りますよ。」と口々に仰しゃったのが、王宗生社長であり、潘先生でした。張福来さんには、その前年6月に楯川、山中、合田が訪問したが、香港へ行かれてお留守だった。

張さんはこの日午後基隆市内見物と、買物にご案内下さる楯川、合田それにそごうの浅井部長も一緒にいる。帝王大飯店でお茶を飲みながら、張さんも私達と同年の昭和8年生れで、大変な英雄であることを知りました。正に英雄を知るとはこの事でした。その夜の『小上海』歓迎パーティは、乾盃に次ぐ乾盃ですがの楯川さんもグロッキー、浅井さんと私は飲まないのと逃げましたが、逃げ切れるものではありません。播さんに見事な蝶の標本をいただきました。

この日から潘先生（潘先生は基隆東クラブの指導員主任であります）は、私達の垂水クラブと基隆東クラブを結び付けようと懸命の努力をして下さる、経過詳細をお送り下さる、姉妹締結小委員会を国際委員会の中に作って、全員が姉妹クラブ締結の意向を持つ様に側面から盛り上げをお助け下さる。王宗生社長も白社長にご助言を給わる。

一気に姉妹締結の気運が湧き立つ。チャーターナイトと一緒に挙行したらどうかと、潘先生よりお話があった時は、正直当方も驚く。『えらい早く事が運ぶものですね。正にトントン拍子です。』と垂水クラブが遅れてはならじと、中沢会長、増田委員長に楯川幹事、合田が対策を練ることでした。

ほとんど毎日基隆の潘先生に電話で打合わせをする、播先生はテキパキ対応下さる……そして、私達の使節団が、松山空港についた時お出迎えの張さん、潘先生と肩を抱き合ってお慶びを述べあった。この時初めて私は、シスタークラブが実現したのを実感として受け止めた。これは当初から一緒に苦労した楯川さんも同じ思いであつたろう。

張福来さんありがとう。

潘春季先生ご好意感謝致します。

（合田記）

